

## 首相は憲法改正を断行せよ!!

安倍内閣が発足してから五ヶ月が経過した。小泉政権の二年目から政府や党の要職を歴任し、総裁選では他の候補を圧倒し、誕生した本格政権である。そして期待に違わず教育基本法改正、防衛庁の省への昇格などの仕事をやってのけた。これらは前任者が遣り残した仕事ではあるが、野党が本気で潰しにかかれれば容易くなかった筈である。それを簡単に片付けたのだから、ここまでは順風満帆のスタートを切ったのである。安倍首相が「私の内閣では是非とも憲法改正を成し遂げたい」と述べたのもこうした勢いがあったからに他ならない。だが政治の世界は「一寸先は闇」の世界である。どこに落とし穴があるか分からない。相次ぐ閣僚の失言や、首相自らが任命した政府税調会長による公務員宿舍の不当利用の露顕など不祥事が相次ぎ、内閣支持率が一挙に急落、最近の世論調査によると、昨年9月の政権発足以来、不支持率が初めて支持率を上回った。内閣支持率は一貫して下落を続けており、首相の求心力の低下が浮き彫りになった。この支持率下落に決定的な影響を与えたのが女性を「子供を産む機械」に例えた柳沢伯夫厚生労働相の放言であった。閣僚の問題発言は柳沢氏に止まらず、久間防衛相によるブッシュ政権に対する批判発言の相次ぎ政府内に波紋が広がった。米国は今、イラクを中心とした対テロ戦費の大幅増を迫られ、日本に一部の肩代わりを要求してくる可能性が指摘されている時だけに、閣僚がブッシュの治安維持政策を「非常に幼稚」と批判した発言の火消しに大わらわだつたという。安倍首相は今のところ閣僚の失言に対して、その責任を追及しないでいるが、自民党の議員の中では「官邸は民意に鈍感で、首相は裸の王様だ」との批判が強まっている。特に奈津の参院選で改選を迎える議員は深刻な危機感を持っている。

首相が一貫して憲法改正や教育再生など「国家の形」に拘ることに「国民が求めているのは、生活に結びついた政策だ。外交と国家観が売りでは票にならない」と小市民的な指摘をしている。

民主党は野党連合で過半数を占め、政権を奪取しようと虎視眈眈である。その戦術として、格差の是正を参院選の最大の争点とする方針だが、政府はどうかといえば、首相は直接には触れず、経済成長による底上げに拘り、これと並行して「再チャレンジ」という言葉を頻繁に使っている。最近ではさらに「二度三度は

はるか、何度もチャレンジ可能にする」とまで言い出している。しかし実際には再チャレンジなどは言葉の遊びでそんなチャンスは簡単には得られないのが実情である。こういう甘さから所詮苦勞知らずの「お坊ちゃん内閣」と言われるのである。この甘さこそ首相にとってのアキレス腱になる恐れが心配される。この際首相は思い切った問題閣僚を辞めさせて有能な人材と交代させるべきである。

安倍内閣は、六〇年安保改定時の岸内閣以来、初めて憲法改正を真正面から取り上げた内閣である。また新しい国作りは教育の再生からと堂々と主張したのもこの内閣であり、国家の安全保障に関して、官邸主導を貫こうと米国式の国家安全保障会議を創設しようとしているのもこの内閣である。しかし首相の意図するところが、政府や党に浸透していないことが危惧される。

内閣が発足して五ヶ月が経っただけで断を下すことは時期尚早と思えてならない。それよりも「私の内閣では是非とも憲法改正を成し遂げたい」と述べた首相の言葉を信じて見ようではないか。

編集人・戸出蒼流

**我々日本人は  
竹島が日本固有の  
領土であることを  
本日改めて宣言し、  
他民族による占拠  
領有権主張に対し  
抗議する。**

**我々は国際裁判  
による紛争解決  
を厭わない。  
我々は不当  
占拠者に対し即時  
退去を求め。**

# 真の平和とは何か……



よく巷で「平和」という言葉を多用して、戦争や紛争を反対する姿勢が大きく取り上げられていますが、現在の国家における安全保障を鑑み、時に戦争や紛争を避けて「平和」を享受し続けることは果たして本当に可能なのでしょうか？ 所謂「平和」とはどうあるべきなのでしょう？ 掘り下げて論じたいと存じます。

どうも「平和」に相対する言葉が「戦争、紛争」と考えていらつしやる方がどうも多いようです。辞書で調べると「戦争や紛争がなく、世の中がおだやかな状態にあること。」が一番目に出てくるので無理もないことかと思えます。しかし辞書にある前述の「おだやかな状態にある

領土といわれる四島。島国であるが故、国境という感覚がどうしても欠如しがちですが、国家主権侵害の最たるものであり、自分の家の一室に勝手に他人が住み着くのと同じ行為を許してしまっています。

次に、外国人が起こす問題が跳梁跋扈しています。年々増加する外国人犯罪は今や刑務所の許容量を越えてしまう程です。また文化、習俗の違いから在日特定アジア人の権利を求めて義務を果たさない身勝手な言い分は、一部の報道機関や政治家が様々な手段で籠絡されたせいで、易々と罷り通る事態に発展しています。

「秩序」のある世の中を構築することなのです。

靖国におられる御英霊は、欧米の植民地政策に対して大東亜共栄圏という新秩序を目指し戦われましたが、現在は残念ながら戦う以前に道徳、倫理の喪失から国内外の「秩序」を放棄している状態です。然すれば外国人の愚行の抑止は難しく、然すれば領土問題の頓挫は必死です。内憂外患、交々至る話になってしまいました。だが、実にそれこそが「無秩序」なのです。勘違いした「平和」の享受に愉悅浸るのでなく、我々、日本人は本来有るべき姿に帰依し、民族の繁栄の為に、外来の者を論じ、戦う事も辞さず、真の「秩序」を目指し、構築することが真の「平和」になるのだと思っております。

編集部・吉田源太

## 迫り来る中国の脅威

今の日本にとって一番の脅威は中国であると言っても過言ではない。偽札や偽ブランド品等の偽造、南京大虐殺に代表される歴史の捏造、利権絡みの排他的経済水域への侵略など数え上げたらきりがない。

次々と中国へ進出する日本の企業も技術だけ盗られて洋ナシとなり何れはお払い箱となるのが関の山である。

日本の厚意は、いわゆる「中国四千年の歴史」によって摩り替えられ中国人の偉業云々と刻まれていく。それを黙って指を啜らせて見過ごすことはない。

日本の厚意というものは、中国人によって、常に利用され続けられているということを忘れてはならない。

どの国でも自国の利益を優先していくのは当然である。この厚意や利益をもつと政治的外交に役立て、我が国は真の友好国と手を結び暴徒と化した中国を抑制していく必要がある。

編集部・秋山慎一郎



会津若松と今市を結ぶ会津西街道に「大内宿」という江戸の情緒をそのまま残した山間の集落があります。約四〇軒の民家が軒を連ね、国の「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されています。

そこには昔ながらの家屋を生かした宿屋食事処、本陣を復元した「大内宿町並展示館」などがあり、時の流れを忘れさせてくれる空間が広がっています。